

第4回目黒区みどりの基本計画懇話会 会議録

日 時	平成 28 年 2 月 4 日 (木) 午後 6 時 30 分から
出席者	<p>(委員)</p> <p>甲斐 徹郎 (関東学院大学客員教授)</p> <p>金子 忠一 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授)</p> <p>澤田 みどり (恵泉女学園大学人間社会学部社会園芸学科准教授)</p> <p>岡田 音次郎 (目黒区農業振興運営協議会会長)</p> <p>熊澤 祐子 (碑文谷公園くらぶ代表)</p> <p>佐藤 留美 (NPObirth 事務局長)</p> <p>市田 淳子 (公募区民)</p> <p>豊田 恭子 (公募区民)</p> <p>宮尾 三郎 (公募区民)</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>一言 太郎 (国土交通省都市局 まちづくり推進課)</p> <p>(事務局)</p> <p>目黒区</p>
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下 1 階第 13・14 会議室
議 事	<p>1 開会</p> <p>(1) 傍聴について</p> <p>(2) 委員の出欠について</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第 3 回懇話会の会議録の確認</p> <p>事務局より第 3 回懇話会の会議録の内容について確認が行われた。修正事項は後日、各委員より事務局に連絡することとなった。</p> <p>(2) 目黒区みどりの基本計画改定素案に対する意見募集の結果について</p> <p>(3) 目黒区みどりの基本計画改定素案について</p> <p>事務局より資料 2 及び資料 3 の説明が行われた。</p> <p>座長 パブリックコメントの実施結果は公表するのか。</p> <p>事務局 計画策定後に公表する予定である。</p> <p>副座長 パブリックコメントを実施して、区としてどのような印象を持っているのか。</p> <p>事務局 資料 2 の「5. 意見に対する対応区分ごとの件数」にもあるが、対応区</p>

	分2が多く、応援していただけているご意見が多いという印象と計画書の見やすさの改善に対するご意見があったという印象がある。
副座長	ベンチ設置など施設に対するご意見が何件かあったようだが、ベンチを設置することで景観をよくするなど、現行計画とは違った視点でのご意見があげられているように感じる。時代を反映したご意見だと感じる。
事務局	懇話会でも話題にあがっていたが、みどりを増やすだけではなく、活かす、質を高めていくということに対するご意見がみられた。区民の意識としても、ただみどりをつくるだけではなく、気持ちよい、使いたいというみどりということが大事であるという認識がみられた。
副座長	これまでは、みどりというとネイチャー好きの方が意識するみどりであったが、ご意見をみると、みどりに対する認識が広まっていると感じた。
委員	表紙の写真はこれで確定なのか。もう少し鮮明な写真などを使えるとよい。
事務局	表紙の写真は基本理念の写真に掲載している。表紙のデザインはこれから検討していきたい。
委員	P.25で「めぐろの森」が初出となるが、説明があるのはP.45である。わかりやすく修正してはどうか。
事務局	目黒区生物多様性地域戦略の中でめぐろの森という言葉を使っているが、そのつながりがわかりにくいと感じた。表現を再考したい。
委員	P.35の写真は天空庭園らしさがあまり感じられない。P.38以降のイラストは色が入り、各段に見やすくなってよかった。P.55公園等の機能再編（再生）事例の写真について、どこがどう変わったかがわからないので補足説明してほしい。
事務局	目黒銀座児童遊園の改修では、老朽化していた遊具の更新と施設の配置変更により公園の見通しの確保に取り組んだ。その結果、利用者の数も3倍ほどに増え、改修工事に一定の成果があげられたとして、掲載している。その旨も合わせて記載したい。
委員	公園のフットパス性が高まった事例ということであれば、そういう説明も含めて記載できるとよい。
副座長	写真だけ見ると遊具が減っており「よくなった」という印象は持ちにくいと思う。わかりやすい説明があるとよい。
委員	P.55地域の子育て支援等に対応した整備事例の写真は、どういう子育て支援に対応しているのか、普通の公園と何が違うのかといったことを文章で説明があるとよい。
事務局	保育園の隣が児童遊園で、保育園から道路等をはさまず直接公園に入ることができ、園庭としても利用できるようにしてある。
座長	整備前の写真はないのか。
事務局	整備前の写真も合わせて掲載できるか検討する。

委員	P.57 中目黒公園祭における藍染体験の写真は、藍染の様子ではないのではないか。
事務局	確認して正確な記載に修正する。
委員	第3回懇話会の会議録を見ると「目黒ブランド」という言葉が出て、行動の目的を戦略的に立てていこうという議論が白熱していた。P.36の基本理念を見ると、動的な戦略意識を鼓舞するような文章表現になっていないように感じる。未来に対してアクションしていくというニュアンスが消えてしまっているようだが、理由はあるのか。
事務局	また、評価軸についての議論では、単に数値目標を掲げるのではなく、目黒らしいといえる何かを確立していくための評価をしたいという議論があった。このあたりは事務局でどのような整理を行ったのか。
事務局	「目黒ブランド」という言葉については懇話会で、これからつくり上げていくものではないかというご意見があった。しかし、みどりが目黒のブランドという位置づけには現段階で達していないという観点から、今回のこの計画では表現を使わないこととなった。
事務局	基本理念の文章が戦略的に弱いというご指摘については、今回「質の高いみどり」を前面に出して皆でつくり上げていくということで進めていきたいと考えているが、平面的な表現となっている部分は再考したい。指標については、P.77でそれぞれの重点的取組に対する事業目標を掲げ、さらに参考指標を掲げている。重点的取組（1）人々の感性を豊かにするみどりづくりに対しては「居住理由について「緑の多い落ち着いた住環境だから」と思う区民の割合」を参考指標としている。重点的取組（2）みどりが彩るまちづくりに対しては、現在値はないが「にぎわいのあるまちだと思ふ人の割合」を今後世論調査で把握していきたいと考えている。重点的取組（3）みどりを活用したコミュニティづくりに対しては「みどりの活動に携わる区民の数」を参考指標としている。
座長	「目黒ブランド」という言葉は区民の立場ではわかりにくいだろうという判断がなされたということである。
委員	「目黒ブランド」という言葉を使わないにしても、「目黒って何かよさそうなまちである」ということが汲み取れる表現を使ってほしい。
副座長	「目黒ブランド」という言葉を使った時の反応は様々だと思うが、「目黒らしさ」などに言い換えて、目黒らしいみどりをつくっていこうということを表現できるとよい。P.36、37はこの計画の肝だと思うが、「目黒区」を他の区の名前に置き換えても違和感がないように感じられるのは残念である。目黒区にはめぐろの森をはじめ特徴的なみどりがあって、それぞれにいろいろな役割を担えるストックがあるということ、そして、それをみんなでつくり上げていこうということが、ひいては目黒ブランドのみどりをつくっていくことになると考えている。区民がこの

委員	<p>文章を読んだ時にモチベーションがあがるような表現やキャッチコピーがあるとよいと思う。また、P.37 の写真にもそのようなことを感じられるものを使えるとよい。</p>
	<p>目黒区の公園の特色は、自然が活かされて整備されていることだと思う。公園はみどりと人のネットワークの拠点になり得ると感じている。また、公園が区を取り囲むようにあるが、みどりが比較的多い地域とそうでない地域がある。これまでの議論を踏まえて、みどりの少ない地域にみどりのネットワークを広げていくということがこの計画に書かれていると思うが、どう実現していくかが重要だ。</p>
事務局	<p>今後道路の拡幅整備が進み、並木が整備されればみどりが増え、防災性も向上する。緑道や用水もみどりが増えれば、公園という拠点からネットワークを広げられると思う。それらの取組によりみどりの少ない地域にもみどりを充実していくことが、目黒区らしいみどり増やし方なのではないかと思う。</p>
	<p>これまでは、みどりの軸をつくるという考え方があったが、今回の計画ではより細かいネットワークを形成していくという考え方にしている。拡幅整備を行う幹線道路で新たにみどりを創出するとともに、すでにある一定のみどりがあある緑道はみどりを守り育てて充実していくことで、目黒区のみどりの軸となる部分を充実させていくことを計画に記載している。</p>
座長	<p>P.36 の基本理念、P.37 の写真は「みんなが主役」ということが伝わるようさらに工夫できるとよい。</p>
委員	<p>個人的には、区の面積が小さく、各公園の面積も小さいが人口が多い地域である中で、小さいみどりを守ろうとする取組が多い点と、天空庭園や目黒川のようにみどりをつくり出す取組があることが、目黒らしさだと感じている。坂が多いといった地形的な特徴も含めて、みんなが主役という視点が伝わる基本理念であるとよい。</p>
副座長	<p>目黒区に住んでいる人が共感できる目黒らしさと、みんなと一緒にやっいていこうという盛り上がりがある文章の中に表現されるとよい。目黒に住んでいる人に共感を得られることが重要ではないか。</p>
事務局	<p>P.36、37 はもう少し内容を再検討する。</p>
委員	<p>目黒らしい暮らしの価値を、みどりを活用してどのように高めていくかということの本気になってみんなで取り組みましょうという表現ができるとよい。</p>
委員	<p>目黒区は住みたい街の上位にあげられる。上位になる理由は、みどりに関わりがあるのではないかと感じている。そういった点を表現できるとよい。</p>
副座長	<p>区民と同じ目線でモチベーションを上げられるような文章表現や写真</p>

		を掲載できるとよい。
委員		さきほど委員もおっしゃっていたが、小さなみどりを育てる区民一人ひとりが力を合わせようという主旨が表現できるとよい。
委員		住みたい街となる理由、まちのプライドのようなことが表現できるとよい。
委員		住みたい街となる理由の中には、歴史・文化を育んできたということがあるのではないか。
委員		そういった目黒らしさは、意識して守り、今から根付かせていくことが大事だと考えている。
委員		碑文谷公園やすずめのお宿緑地公園など歴史を感じられる公園の写真を掲載してはどうか。
事務局		今のご意見は基本方針で触れているが、基本理念のところでもわかりやすく表現していきたい。
委員		区民が納得するだけでなく、動き出したくなるような表現にしたい。
副座長		ここは計画書の概要版でもはじめにふれることであり、とても重要だと考えている。みんなで一緒にやっていきたいと思いますという方向性が伝わる表現としたい。
座長		概要版を作成する目的は何か。
事務局		普及啓発を目的としている。イベント時の配布も想定している。
座長		より多くの区民に知ってもらおうということを考えると、概要版の伝わりやすさも重要だと考えている。
委員		今後施策としてどこに当てはまるかは検討すべきだが、目黒ブランドということ考えた時にマンションデベロッパー等の民間企業の取組は大きな影響があると考えられる。その際に目黒ブランドのみどりに対して積極的に表彰したり、 BID 制度にみられるようなまち全体へ還元する取組を支援していくといった視点を持った基本理念としていけるとよい。
副座長		目黒ブランドという表現が伝わりにくいという意見はあると思うが、これまでとは違うということをうまく表現できるとよい。
事務局		みどりに対して抵抗のある方、意識をお持ちでない方も一定数おり、今の目黒区ではみどりがブランドと言いきにくいという結論に至った。今後この計画に基づいて目黒らしいみどりをつくりあげていくということは、この計画に盛り込んでおり、進めていきたいと考えている。
委員		みどりに対するリテラシーの向上がまずは課題ということか。
事務局		まずはその課題に対して、区民一人ひとりが主役となったみどりを育てていくということが大事だと考えている。
副座長		みどりの大事さについて記載されている点はよいと思うが、これは現行計画でも触れられていることである。目黒ブランドという行き過ぎか

	<p>もしれないが、その中間くらいの内容が前面に出るとよい。</p>
事務局	<p>個別の公園づくりの話などであれば、ブランドのような表現は使えるかもしれないが、まちづくりの中ではまだ難しい。</p>
委員	<p>みどり自体が目黒のブランドとはまだ言えない状況との説明があったが、そうではなく、目黒ブランドに資するみどりづくりを目指すということが重要なのではないか。</p> <p>目黒らしさという表現でもよいが、大事なのは、目黒ブランド、目黒らしさに資するみどりを創るということだと考えている。みどり自体がブランドであると表現することではないと考えている。</p>
委員	<p>ブランドといった表現の先には、みどりそのものに対してだけでなく、まちづくりや環境問題に対しても意識を持っているということがあり、そういった視点を打ち出してもよいかもしれない。</p>
委員	<p>基本理念の中で、目黒の人はこれまで頑張ってきたということが表現できるとよいのではないか。それが目黒らしさの表現につながるのではないかと感じている。</p>
副座長	<p>目黒らしさに貢献するみどりづくりをしている取組に対して表彰したり、ブランドをつけていくきっかけづくりをここで示していけるとよい。</p>
委員	<p>個人的に目黒ブランドという言葉に抵抗がある。目黒らしさはよいが、ブランドという言葉はモノを想起させる。また、目黒区民全体が意識がそこまで高いかという、そうでない人も一定数いる。環境保全課が行う自然観察会の講師で招いていただいた際には、参加者がある程度決まっているという課題もみられた。ブランドと言うには全体的にまだその状況にないと感じている。</p>
副座長	<p>目黒らしさを創っていくためのみどりづくりというという視点を出せるとよい。</p>
委員	<p>ブランドがモノという段階は本当のブランドにはなっていない状況で、社会現象のように、誰もがよいと感じる状況にすることがブランド化だと考えている。しかし、誤解を招きかねない表現であれば、使い方も気をつけなければならない。</p>
座長	<p>ブランドという言葉が先行し、誤解を招くことは避けなければならない。</p>
委員	<p>目黒に住む人がこれまで頑張ってきたことを素直に表現すればよいのではないか。自慢げに書いてもよいくらいだと感じている。頑張ってきたことを踏まえて、これからさらに頑張らしようという表現があるとよい。</p>
委員	<p>昔から目黒に住む人は小さいみどりを育ててきたということや、区が各地区平等に施策を推進し、住みやすいまちづくりに取り組んできたとい</p>

	う具体的な内容を示すことが大事ではないか。
副座長	「みどりをを感じる・みどりと暮らす・みどりに集う」というフレーズはよい。このニュアンスを元に、みどりに意識を持っていない人もみどりが暮らしの身近になるきっかけづくりに取り組み、みんなが主役になるということを広く伝えていけるとよい。
オブザーバー	みどりが目黒のまちの価値を高めていくという記述はよいと感じているが、P.36の2段落目のみどりの価値についての記述は変更の余地がある。3段落目の文章と合わせて読むと、これまで目黒区で頑張ってきたということが少し後退する印象を受ける。これまで頑張ってきた結果、自慢できる目黒らしいみどりというものがなんとなく掴めてきており、今後それがまちの価値を高めるのではないかと考えるに至ったという流れが説明できるとよい。それらの流れと課題を整理した結果が「みどりをを感じる・みどりと暮らす・みどりに集う」というスローガンがあるという構成であれば、目黒らしいみどりに向っていくという方向性が示せるのではないか。P.37の写真については、重点的取組のどれを示しているかということがわかるとよい。また、人がみどりに関わっている様子や子育てに関わる写真が示されているとよい。
委員	基本方針のイラストにあるように、桜がある暮らしとといったイメージが基本理念のところでも伝わるとよい。
委員	季節感のあるイラストや写真で目黒らしさが表現できるのはよいことだと思う。
座長	基本理念でも目黒らしい表現ができるとよい。
委員	みどりに対して意識のある人はまだ多くないと事務局から説明があったが、だからこそ、そういう人たちがみどりを自分のこととして意識を持てるような取組を行い、それこそがまちの価値を高めていくという流れで説明できるとよい。
副座長	写真は大きなインパクトがあるので、未来が見えるような写真が少しでもあるとよい。子どもが写っている様子が少ないというご意見があったが、子どもが泥だらけになっているといった勢いのある写真があるとよい。
委員	鳥の写真は目黒区の巣箱モニターのことだと思うが、説明があった方がわかりやすいと思う。
座長	P.36、37はこの計画の魂のようなものなので、伝わりやすい工夫をしてほしいという意見が多くあげられた。概要版でも同様に伝わりやすさを考えてほしい。
	今日は最後の懇話会となる。他の項目についてご意見はあるか。
副座長	P.64に農地に関する施策が記載されている。生産緑地地区に指定されて

	いる農地の保全について、どのように考えているのか。
事務局	資料2の最後のページの整理番号2-3に記載しているが、区の実情にあった形で手法を検討していきたい。
副座長 事務局	民地の保全は難しい課題だと思うが、十分な対応ができるとよい。 目黒区内に生産緑地地区は16か所で、あまり多くはないため、守っていく手法を考えていけるとよい。
副座長 事務局	目黒のブランドにつながるような野菜は何かあるか。 タケノコがある。すずめのお宿緑地公園で近隣の小学5年生が目黒式タケノコ栽培法を学んでいる。
副座長	公園でのファーマーズマーケットを開催して地元の農家を応援するといった事例が多くある。目黒区でそういった取組は考えているか。
委員	ぶどうの収穫体験は2件、実施されている。
副座長	P.36の写真にはもう少し農業の風景があってもよいと感じた。
委員	碑文谷公園で地元の農産物が販売されることもある。
委員	碑文谷公園のスポーツまつりでは目黒の農協の方が地元の農産物を販売することもある。その際はすぐに売り切れてしまうくらい人気がある。
副座長	大きな農地はないとしても、大事なみどりとして応援していけるとよい。
委員	P.77の参考指標「にぎわいのあるまちだと思ふ人の割合」はみどり以外の要素も含むので、もう少しみどりのことを測るための表現があるとよい。
委員	にぎわいと言うと単に人が多いだけという印象もある。人が憩うイメージではない。
オブザーバー	現状値がないこの指標は、どこでどう測るのか。
事務局	世論調査を活用したいと考えている。
オブザーバー	都市公園だけではないが、都市公園利用実態調査を活用するといった視点もあってもよいかもしれない。
委員	目黒区公園等利用実態調査では「ゆっくりくつろげる公園に対するニーズが高い」と記載されているが、そういった点を計測できるとよいのかもしれない。
オブザーバー	目黒区公園等利用実態調査は何年おきに行っているのか。
事務局	改修を行う公園については、個別に利用実態等を調査することもあるが、全区的には10年に1度の頻度で行っている。
オブザーバー	規模を縮小して毎年行うことはできないのか。
事務局	新たな調査を実施することが難しく、P.77の参考指標についても既存の調査の中で測れるものを検討している。
委員	資料2区民意見の整理番号2-1で「多様なニーズに応える公園づくり」

	とあるが、パーシモンホールの横の広場のようなところが増えるとよい。
委員	P.76、77 の参考指標は第4章の P.56 にあった方がわかりやすいと感じた。
事務局	事務局内でも議論があったが、P.56 には全ての施策を掲載している。P.76、77 については、今回の計画のテーマともなっている「質の高いみどりづくり」を推進するために、特に重点的に取り組む項目として3つを掲げて施策を整理している。
座長	懇話会なので、意見として事務局で対応を検討してほしい。最後の懇話会ということで、気になった点もあると思うが、今後のスケジュールを確認して、この場以外で意見を提示できるかを確認したい。
事務局	再来週から計画を決定する庁内の会議に入るため修正、検討は来週までとなる。本日いただいたご意見をできる限り反映し、2月に庁内の会議等を経て、3月25日に公表を予定している。そこでは冊子も完成している予定なので、原稿の入稿は3月上旬になると考えている。
座長	反映できるかは別として、意見は来週までに事務局に送ってほしい。
委員	細かい指摘だが、P.27 の図の凡例の町丁別公園緑地面積率の一番上「0%以上」とあるが、これは「0%未満」ということか。
事務局	正しくは「0%」であるため、修正する。
委員	特に P.36 については、本日の修正を踏まえて最終確認を取らせてもらうことはできないか。タイトなスケジュールだと思うが、懇話会として、最後まで見た実感を持って完成できるとありがたい。
副座長	特にご意見の多かった P.36 は懇話会の意見の結晶だと感じている。文章だけでも最後に確認したい。
事務局	2月9日を目途に修正原稿を送付する。
オブザーバー	国土交通省の「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」中間とりまとめの内容を記載できるとよいと考えていたが、内容は反映できないか。
事務局	ご意見は承っていたが、中間とりまとめで最終的な方向性がわからない中で引用することは難しいと判断した。
オブザーバー	社会資本全体で公共だから稼いではいけないといった発想は転換しようという議論がある。公園のストック再編の内容でも、そういった視点が入っていたほうがよい。
事務局	東京都の「パークマネジメントマスタープラン」でも公園を活用していくという視点が掲げられており、そこを引用して公園の新たな考え方をこの計画にも反映させている。
副座長	現場サイドでも、都立公園の対応が変わってきている実感がある。
オブザーバー	考え方の転換期であることを踏まえて、もう少し国の動向等がわかると

	よい。
座長	懇話会は最終回となる。各委員4回の懇話会を通じての感想等があれば伺って最後としたい。
委員	この懇話会に参加し、公園やみどりを見る目が変わったと感じている。目黒区は既にできているところにみどりをつくるという難しさを感じているが、区も頑張ってもらいたい。
委員	懇話会での議論を通して、あらためて目黒区は自然をうまく活かして残していると感じた。みどりのネットワークという点では、並木や歩道について改善する余地があるのではないかと感じている。
委員	長年、目黒区に住んでいるが、公園が小さいことや担い手が不足していることを感じた。これからも目黒区のためにできることがあれば力になりたい。
委員	懇話会に参加させていただき勉強になった。みどりの残し方を考えていかなければいけないと感じた。
委員	いろいろな立場の方と意見を出し合えたことで勉強になった。今後の方針の中に園芸療法という言葉が入っているので、なんらかの力になればと思う。
委員	たくさんのお話を学ばせていただき、感謝している。碑文谷公園を中心にさまざまな活動をしてきたが、これからも地域で協力して公園を大事にしていきたい。
委員	懇話会ではそれぞれの立場で議論しながら、お互いに気づきもあり、さらに、最終的に皆でつくり上げていこうという気持ちになれてよかった。みどりを量的に増やしていくことの次に、みどりを自分のこと化し、プライドを持ってまちづくりのブランドにみんなが参加するんだという議論になっていくための節目の時期になっていると感じた。
オブザーバー	地方公共団体がみどりの基本計画を策定する議論の現場を経験できてよかった。目黒区の公園は人の関与が活発で、目黒らしさとは人とみどりの関わりということだと思う。そこを一生懸命議論して、ここまでかたちになったのだと思う。
副座長	目黒に対するイメージや価値観を変えていく機会をもっと増やしていけるとよい。みどりに関わる施策や考え方も大きな転換期にあると思う。区民の方とみどりについて一緒に自由に新しいことができるきっかけとなり、未来につながりみなさんが目黒区を愛していくような計画書となるようお願いしたい。
座長	毎回委員のみなさんに活発なご意見をいただき、事務局も熱い想いを抱いてまとめてこれたと思う。目黒区は既にみどり豊かな区で先駆的な取組もある。懇話会での議論を通して、あらためて魅力のあるみどりのまちであるということを確認した。委員のみなさんには今後も目黒区の

	<p>みどりについて一緒になって考えていただいて、よりよいまちとなるようご支援いただきたい。</p> <p>事務局 目黒区はみどりの多いまちと捉えられている一方で、みどりの実態調査ではみどりが減ってきているという数字も出ている。これから先、子どもや孫の世代にみどりを残して、より豊かな暮らしができる区にしていかなければいけないという大きな命題があると思っている。区民が積極的に参加できる基本計画を策定して、区民が活用しやすいみどりや公園を目指していきたい。4回にわたり、熱心にご議論いただいたことに心よりお礼を申し上げる。</p> <p>3 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--